

## 3. 1 小学校 1・2年生 (2) 指導の概略

### I. 地震・津波を知る B. 津波の特徴を知る

指導する学年	小学校1年生	指導する時間	体育(着衣水泳) ／学活	指導する時数	1 時 間
目 標	津波の速さと流れの強さ(破壊力)について知り、津波についての知識を深める。				
使用する資料	【動画-01】2004年インド洋津波(海岸到達の様子) 【動画-08】津波の破壊力に関する実験 【print-12】津波の破壊力について				

#### ※着衣水泳の時間を活用

- ・着衣水泳を行っているプールサイドでの指導が望ましい
- ・視聴機器等の準備が必要なため、着衣水泳後に屋内にもどってから指導することでも可
- ・着衣水泳後の衣服の着脱・後始末等に時間が掛かり、着衣水泳は設定した時数より実際は多く時間を必要とする。
- ・そのため、実質的な着衣水泳＋後始末・防災教育で時数2時間扱いとして考えるとよいかと思う。

※学校によっては、着衣泳を低学年で行っていない場合もあるが、1・2年生のうちに、着衣泳とからめた指導を行っておくことが望ましい。

#### 1. 導入 →着衣水泳学習後、最後の10分程度で体験する。

(1)服を着て、水の流れに沿ったり逆らったりして、歩いたり泳いだりした時の感想を話し合う。

#### 2. 展開 →次時

(1)インド洋津波の映像を見て、気付いたことを話し合う。

【動画-01】2004年インド洋津波(海岸到達の様子)[2:10]

(2)映像を見て、津波の速さや流れの強さについて知る。

【動画-08】津波の破壊力に関する実験 [0:37]

#### 3. まとめ

(1)着衣水泳や実験映像を見て気付いたことをプリントに記入する。

【print-12】津波の破壊力について

(2)感想等を発表し、今日の学習をまとめる。

#### 4. 確認

(1)津波の速さや破壊力を知ることができたか？

(2)津波が来たら、早く避難する必要があることを知ることができたか？

関連する  
教科・行事等

### 3. 1 小学校 1・2年生（2） 指導の注意点

#### 1. 導入 — →着衣水泳学習後、最後の10分程度で体験する。

- (1) 服を着て、水の流れに沿ったり逆らったりして、歩いたり泳いだりした時の感想を話し合う。  
→水の流れに逆らう体験をし、強さと速さを知る

#### 2. 展開 — →次時

- (1) インド洋津波の映像を見て、気付いたことを話し合う。  
→映像を見て気付いたことを発表してもらう  
→発言から「人が簡単に流されてしまうほど津波の流れは強い」ことをおさえる

- (2) 映像を見て、津波の速さや流れの強さについて知る。

- 映像を見て気付いたことを発表してもらう  
→発言の中から「津波の中を歩くことはできない」ことをおさえる  
→たとえ50cmの津波でも立っていることはできないことを確認する  
→車などを例に出し、津波の具体的な速さについて説明する

参考：津波の速さは水深に比例する。

- 水深5,000m →時速800km(ジェット機)  
水深500m →時速250km(新幹線)  
水深100m →時速110km  
水深10m →時速36km(自動車)



【動画-01】[2:10]  
2004年インド洋津波(1)海岸到達の様子



【動画-08】[0:37]  
津波の破壊力に関する実験

#### 3. まとめ

- (1) 着衣水泳や実験映像を見て気付いたことをプリントに記入する。  
(2) 感想等を発表し、今日の学習をまとめる。  
→津波から命を守るためには、早く避難する必要があることをしっかりおさえる